

第5・6学年 国語（書写）科

1 学年の目標

- (1) 日常生活に必要な文字について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や表現力を養う。
- (3) 文字がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、文字の大切さを自覚し、文字を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 内容及び内容の取扱い

(1) 内容

- ① 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書く。

以下の事項について理解し使うこと。

文字の大きさ	主に用紙全体との関係から判断される文字の大きさであり、用紙全体からはみ出さずに書いたり、余白をつくり過ぎずに書いたりする。
配列	用紙全体との関係から考えられる文字の位置、字間、行間などの効果的な在り方に重点を置いて書く。
書く速さ	書く場面の状況によって速さが決まってくることを意識して書く。

- ② 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書く。

以下の事項について理解し使うこと。

穂先の動き	点画の中での穂先の動きだけでなく、点画から点画へ、さらには、文字から文字へと移動していく過程に重点を置いて書く。
-------	--

- ③ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書く。

以下の事項について理解し使うこと。

筆記具	目的に応じて、鉛筆、フェルトペン、毛筆、ボールペン、筆ペンなどから選択して書く。
-----	--

(2) 内容の取り扱い

- ① 書く速さの意識化は、中学校における行書への橋渡しという位置付けも意識して指導する。
- ② 書き始めから書き終わりまでを無理なくつないで書き進める書写のリズムを習得させるようにしたり、日常で文字を書く条件に近づけるようにしたりする。
- ③ 手書きの慣習に関わるものとして、それぞれの筆記具の特徴を踏まえ、目的に合ったものを選ぶことができるようにしたい。

3 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	日常生活に必要な文字の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりする。
思考・判断・表現	日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げる。
主体的に学習に取り組む態度	文字を通じて積極的に人と関わりながら、文字がもつよさを認識しようとしているとともに、文字をよりよく使おうとする。